

1. 略歴

| | |
|----------|--|
| 2001年3月 | 東京大学教養学部生命・認知科学科 卒業 |
| 2001年4月 | 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻修士課程 入学 |
| 2003年3月 | 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻修士課程 修了 |
| 2003年4月 | 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程 進学 |
| 2006年3月 | 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程 修了 博士（学術）取得 |
| 2006年4月 | 東京大学大学院総合文化研究科 日本学術振興会特別研究員（PD） |
| 2007年4月 | 東京大学総括プロジェクト機構ジェロントロジー寄付研究部門 日本学術振興会特別研究員（PD） |
| 2006年9月 | イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校バックマン研究所 客員研究員 |
| 2009年4月 | 名古屋大学大学院環境学研究科 講師 |
| 2012年10月 | 名古屋大学大学院環境学研究科 准教授 |
| 2017年4月 | 名古屋大学大学院情報学研究科 准教授 |
| 2017年9月 | 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授 |

2. 主な研究活動

a 専門分野

実験心理学、認知心理学

b 研究課題

社会的認知とエイジングを主な研究課題としている。社会的認知とは人間の社会行動を支える心の働きの総称であり、他者の感情・思考や性格の推測、自己の行為のコストベネフィット評価や道徳性の判断、相手を信頼して協力するか否かの意思決定など、多様な心理過程が含まれる。一方、エイジングはagingのカタカナ表記で、「年をとること」である。「近頃、年のせいで…」というぼやきもあれば、「年の功」という言葉もあるように、心の働きには年齢とともに低下する側面も向上する側面もある。中でも社会的認知のエイジングについて検討することで、世代間の交流・理解を促進するヒントが得られないかと考えて研究を進めている。

c 概要と自己評価

人間は他者の顔つきを手がかりとしてその性格や能力などの特性を推論する傾向があるが、そうした顔特性判断への依存度には個人差が存在する。例えば、顔特性推論の妥当性を信じる程度や顔特性推論を実際に極端に行う程度には個人差があり、両者は正の相関を示す。顔特性推論への高い依存が他者への偏見・差別や自身の対人問題（詐欺被害など）につながる可能性を踏まえると、それがなぜ生じ、どのような作用を持つかの解明は重要な研究課題である。そこで、顔特性推論の個人差がどのような特徴をもち、その背後にどのようなメカニズムがあるかを明らかにすることを目指して研究を進めている。最近の研究では、顔画像の印象をSemantic Differential 尺度上で評価したデータから顔特性推論の極端さを定量化する方法を用いて、顔特性推論の極端さと顔表情認知能力やステレオタイプ受容との関係を明らかにした。また、顔特性推論の極端さや顔表情認知能力を含む社会的認知の個人差と物語読書習慣との関係を調べる英日二国間研究も実施した。この研究では、従来欧米で報告されてきたような社会的認知と物語読書習慣との関連が日本では認められないという結果が得られ、さらなる検討の必要性が明らかになった。以上に関連する研究成果は既に国内外の学会で発表され、発表賞を受賞する評価も受けており、研究は順調に進んでいる。

d 主要業績

(1) 著書

辞書・辞典・事典、Chen, S. H. A., & Suzuki, A., 「Trust」、in S. Della Sala (Ed.), Encyclopedia of behavioral neuroscience, 2nd ed., vol. 3 (pp. 532-539)、Elsevier、2021

(2) 論文

Childs, M. J., Jones, A., Thwaites, P., Zdravkovic, S., Thorley, C., Suzuki, A., Shen, R., Ding, Q., Bums, E., Xu, H., & Tree, J., 「Do individual differences in face recognition ability moderate the other ethnicity effect?」、『Journal of Experimental Psychology: Human Perception and Performance』、Vol. 47, no. 7、893-907 頁、2021

(3) 学会発表

国内、鈴木敦命、「顔感情認知能力の高い人ほど極端な顔特性推論をおこないやすい」、日本感情心理学会第 28 回大会、オンライン開催、2020.6

国際、Suzuki, A., 「Perception and learning of others' trustworthiness in healthy older adults」、Online Workshop 2020 on Sustainable Development、2020.9

国内、大江朋子・鈴木敦命、「高温環境がもたらす表情知覚のバイアス：怒りと恐れ顔分類課題を用いて」、日本心理学会第 84 回大会、オンライン開催、2020.9

国内、鈴木敦命・塚本早織・高橋雄介、「顔特性推論の極端さはステレオタイプ化傾向と関連する」、日本心理学会第 84 回大会、オンライン開催、2020.9

国際、Suzuki, A., Tsukamoto, S., & Takahashi, Y., 「Relationships of face-based trait inference with face emotion recognition ability and stereotype endorsement」、61th Annual Meeting of the Psychonomic Society、Online、2020.11

国際、Wong, J.-Y., Suzuki, A., & Liu, C. H., 「Is face perception associated with fiction reading?」、January Meeting of the Experimental Psychology Society、Online、2021.1

国内、鈴木敦命・小山内秀和・Chang Hong Liu、「物語読書習慣と社会認知の個人差の関連に関する英日二国間研究」、日本心理学会第 85 回大会、明星大学（オンライン開催）、2021.9

国内、伊藤資浩・樋口航大・鈴木敦命、「金銭的誘因が探索・隠蔽行動における推論の深さに及ぼす影響」、日本心理学会第 85 回大会、明星大学（オンライン開催）、2021.9

国際、Suzuki, A., Ueno, M., Ishikawa, K., Kobayashi, A., Okubo, M., & Nakai, T., 「Bias towards trusting others is associated with insular activity before distrusting them」、62nd Annual Meeting of the Psychonomic Society、Online、2021.11.5

(4) 研究報告書

鈴木敦命・宮崎由樹・大江朋子・上田祥行、Humanities Center Booklet Vol. 7 「顔の実験心理学 (2) 一顔では決まらない顔の印象」、2021.2

(5) 受賞

国内、鈴木敦命・江見美果・石川健太・小林晃洋・大久保街亜・中井敏晴、日本心理学会第 83 回学術大会特別優秀発表賞、日本心理学会、2020.9

国内、服部友里・渡邊伸行・鈴木敦命、2019 年度 日本基礎心理学会優秀論文賞、日本基礎心理学会、2020.11.9

国内、鈴木敦命・小山内秀和・Liu Chang Hong、日本心理学会第 85 回学術大会優秀発表賞、日本心理学会、2021.12.20

3. 主な社会活動

(1) 学会

国内、日本心理学会、『Japanese Psychological Research』編集委員、2019.11～

国内、日本基礎心理学会、『基礎心理学研究』編集委員、2018.4～